



消防広報

けい

しょう

Vol.70

2011

警鐘

太宰府消防署

新庁舎 竣工!!



太宰府消防署モニュメント書き出し

一意精誠 愛我郷 寒風徹骨 望楼上
猛火投身 灼熱場 沈着果敢 消防士

■口語訳

ひたすら真心をもって 故郷を愛する 骨を突き
とおす寒風の中 火災現場の建物を見上げる
灼熱の猛火の中 身を投げるように飛び込んで
いく 冷静かつ果敢である 我ら消防士

平成23年度 全国統一防火標語

消したはず 決めつけないで もう一度

発行 筑紫野太宰府消防組合消防本部
公式ホームページ <http://www.chikuta119.jp/>

編集 広報委員会 第70号
E-mail cdinfo@chikuta119.jp

筑紫野太宰府消防組合 管理者

筑紫野市長

ふじた ようぞう
藤田 陽三



筑紫野・太宰府両市民の皆様、このたび筑紫野太宰府消防組合管理者に就任いたしました藤田陽三です。

当消防組合は筑紫野太宰府両市17万人が安全で安心して暮らせるよう、昼夜を問わず、日々献身的な業務を遂行しています。

近年、地球的な規模で温暖化が進んでおり、世界各地で災害が発生し、数多くの尊い人命が失われています。日本国内でも同様に、地震災害や局地的なゲリラ豪雨にみられる水害など、消防の果たすべき役割は特に重要であり、市民の皆様の期待もますます大きくなっていると思います。

ここ数年は、経済活動の低迷から、地方自治体を取り巻く情勢は非常に厳しくなり、筑紫野・太宰府両市もまた例外ではございませんが、市民の方々の生活に直結している消防業務は、有事の際はもちろん普段の生活から途切れることは絶対にあつてはならないものだと思っております。

この崇高な職責をしっかりと認識し、日々の業務や訓練に大いに励み、「安全・安心」な街づくりにかつて邁進していきます。



筑紫野太宰府消防組合消防本部

消防長

しばた のぶよし
柴田 信義



初夏の候、市民の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素から消防行政の円滑な推進に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、私こと4月1日をもって、筑紫野太宰府消防組合消防本部消防長を拝命いたしました。

我が国の消防は、幾多の先人と皆様をはじめとする関係各位のご尽力により、地域社会に密着した防災機関として、着実に発展を遂げてまいりました。しかしながら近年の災害は、社会情勢や地球環境の変化といった様々な要因により複雑多様化、大規模化しており、自然災害にあつては年々増加の傾向にあります。

今年3月11日午後2時46分ごろ、マグニチュード9.0の地震が東北地方太平洋沖で発生し、東北、関東地方が甚大な被害を受け、未だに被災者の方々が避難所での不安な生活を余儀なくされております。今後国内では、大規模自然災害の発生も予想されており、ひとたび大規模災害が発生すれば、多くの犠牲者がでることが懸念されます。

こうした情勢の中、消防機関として管内住民の負託にこたえるため、住民が安全で安心して暮らせる災害に強いまちづくりを目指し職員丸とあつて邁進してまいりますので、皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「緊急消防援助隊」派遣報告

東北地方太平洋沖地震の発生から約3カ月を迎えました。あらためまして、犠牲となられた方々とご家族のみなさまに、心よりお悔やみ申し上げます。

マグニチュード9.0を観測した今回の地震は、日本観測史上最大規模となり、東北地方を中心として多くの地域に甚大な被害をもたらしました。

この未曾有の大災害に対し、消防、自衛隊、警察はもとより、国外からも多数の支援チームの派遣が行われ、当消防本部からも「緊急消防援助隊 福岡県隊」として2隊6名を派遣しました。派遣詳細は次のとおりです。

緊急消防援助隊・福岡県隊	
筑紫野太宰府消防本部隊(派遣隊)	
隊長 消防司令 吉村 賢司	
後方支援部隊	救急部隊
消防士長 羽野 和之	消防司令補 山上 保則
消防士長 宮本 健志	消防士長 梶原 政憲
	消防士長 川上 泰明

派遣場所／宮城県亶理郡亶理町
活動概要／被災現場での救急業務並びに後方支援等

行程

- 3月14日 福岡県発／岡山県総合グラウンド着(野営)
- 15日 岡山県発／静岡県消防学校着(野営)
- 16日 静岡県発／栃木県消防学校着(野営)
- 17日 栃木県発／宮城県亶理町着
- 18日～20日 亶理町での救急救助活動
- 21日 福岡県隊帰福
- 22日 筑紫野太宰府消防本部緊急援助隊 帰隊報告式

「緊急消防援助隊派遣隊員を経験して」消防司令補 山上 保則 はじめに東北地方太平洋沖地震で被災された方々のお見舞いと、お亡くなりになった方々のお悔やみを衷心より申し上げます。

今回、3月14日から21日までの間、宮城県亶理郡の地へ緊急消防援助隊福岡県隊として、県内から51隊168名、うち当消防本部から2隊6名が派遣されました。被災地の事は新聞、報道などで目にはしていましたが、実際に見るとその光景はすさまじく、まるで焼け野原が一面に広がっている様であり、私ははばらく言葉が発する事ができませんでした。そのような中で、生存者がいる可能性を信じ捜索を行いました。残念ながら生存者を発見することはできませんでした。

私は、今回の派遣で命のありがたみ、生きていることへのありがたみ、心から感謝することができました。亡くなった方のためにも1日1日を大切に生きていこうと思います。

この災害から日本が立ち直るためには多くの年月を要する。ことと思ひます。そのために国民全体が力を合わせて助け合い、支えあいながら頑張れば必ずや立ち直れると私は信じています。

頑張ろう日本

総務省消防庁より後方支援部隊の充実・強化を図ることを目的として太宰府消防署へ配置された「支援車」も派遣しました。

